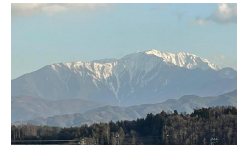


ああ 遠くの空は 晴れている



NO16

南箕輪村教育委員会

読むことは築くこと

書くことは創ること

図書館長 尾 形 浩



これは、「強力伝」「孤高の人」「聖職の碑」などの山岳小説で名高い新田次郎氏が、長女咲子への作文指導で使った言葉だそうです。

様々なジャンルの本を「読むこと」は、自分という人間を耕し成長させる上で必要不可欠なものです。知識の源である新聞を毎日「読むこと」も、自らの思考力・判断力を鍛えるよき習慣です。

「書くことのみがその人を主体的にする」と言われるように、自分の考えや思いを文章で表現することは、自分という人間の骨格を創っていくことそのものであると言ってもいいでしょう。読書とは自分自身の中に知識や考え方、共感力を蓄積すること。また、「書くこと」は自己表現であり、創造すること。「読むことは築くこと 書くことは創ること」改めてその言葉の奥深さに引き込まれます。

私が南箕輪村図書館で出会った本、ベスト3を紹介します。

- 世に棲む日々（司馬遼太郎）：幕末末期の思想家 吉田松陰と討幕の志士高杉晋作の活躍を描いた歴史小説。
- 小説「上杉鷹山」（童門冬二）：米沢藩の危機的財政難を立て直すべく、高邁な理想に燃え、優れた実践能力と人を思いやる心で、家臣や領民の信頼を集めていった経世家 上杉鷹山の感動の生涯を描いた小説
- 流れる星は生きている（藤原てい）：第2次世界大戦後、夫（新田次郎）と引き裂かれた著者が3人の子どもを連れて満州から日本へ命からがら引き上げた体験を記録したノンフィクション作品。

図書館は、「活字の林をさまよひ 思考の泉のほとりに たたずむ」（椋 鳩十）ことのできる素敵なオアシスです。ぜひ、足を運んで、あなたにとって素敵な1冊の本と出会ってみてください。

